

# 県立高等学校あり方検討会 提言まとめ（案）

令和7年5月26日  
県立高等学校あり方検討会  
検討資料 2

## 基本理念

志を育て、未来を切り拓く力を育む学校づくり

## 目指す 県立高校像

- ・時代に対応した質の高い学びや、地域の特色を活かした学びを多様な主体とともに創る学校
- ・世界や地域で活躍する人材を育てる学校
- ・多様な他者と協働しながら、社会に主体的に参画する心を育む学校

## 取組の 基本的方向性

### ①魅力ある学校づくりに向けた取組

#### ■地域（地元自治体・企業等）との連携・協働の推進

- ・地域との協働体制（高校魅力化コンソーシアム）の構築及びコーディネーター配置の推進
- ・地域と連携したキャリア教育や専門的な学びの充実、半導体関連人材の育成
- ・小中学校と連携した地域での教育活動の推進
- ・地域の私立学校等と連携した教育活動の推進

#### ■時代に対応した質の高い学びの推進

- ・熊本スーパーハイスクール構想や高校間連携、高大連携・高大接続の推進
- ・グローバル人材、D X 関連人材の育成

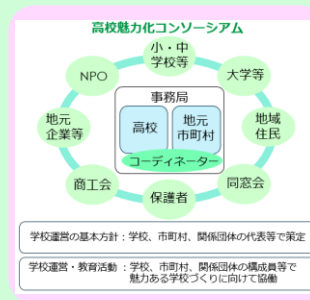
#### ■多様なニーズに応じた学びの場づくりの推進

- ・I C T 活用による遠隔授業の充実
- ・全定通にとらわれない柔軟な学びの導入検討
- ・インクルーシブ教育の充実 ・地域や学校の特色を踏まえた部活動の充実

#### ■学びを支える教育環境の整備

- ・施設、設備の充実
- ・教職員の確保や弾力的な配置、スーパーティーチャー（指導教諭）の活用、業務の精選・重点化、スキル向上
- ・教育D X の推進

地域における高校のあり方を  
多様な主体とともに考え続け、  
県内外から選ばれる学校へ



### ②人口減少を見据えた教育環境の整備

#### ■募集定員の見直し

- ・熊本市内の大規模校を含む全校を対象とした計画的な学級減を実施（R9～R16年度に62学級減目安）
- ・定員割れによる学級減、統廃合の基準を策定（R10以降適用、**魅力化特例校**※に認定された場合は適用除外）

※1学年3学級以下の高校で、学校存続のために地域から必要な支援や評価が得られている学校

見直しに  
あたって

- ・一律の適正規模は定めない
- ・少人数学級編制（1学級40人未満）の本格的な導入を検討
- ・私立高校との十分な協議

#### ■課程・学科のあり方

#### 【全日制課程】＊地域における学びの充実を目的とした、学科や学校の発展的統合も検討

|      |                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------|
| 普通科  | 国の普通科改革の動き等を踏まえ、いわゆる新しい普通科（「学際領域に関する学科」や「地域社会に関する学科」等）の設置を検討 |
| 専門学科 | 人口減少期においても地域の産業教育を維持し続けていくため、細分化された学科の大学科への統合等を検討            |
| 総合学科 | 多様な学びを残す視点から、大学科を統合した総合学科の新たな設置を検討                           |

#### 【定時制・通信制課程】

- ・多様な学習ニーズに対応するため、全定通にとらわれない柔軟な学びの導入を検討（再掲）

#### ■通学区域・学区外枠

- ・現行の3学区、学区外枠13%を維持、学級減等の状況を見ながら見直し

#### 【本県の高校教育を取り巻く環境】

少子化の進行、社会の急激な変化、教育ニーズの多様化、世界的半導体企業の本県進出、高校授業料無償化 等

#### 【提言趣旨】

概ね10年先を見据えた今後の県立高校のあり方について方向性を示すもの。社会情勢の変化等を踏まえた柔軟な見直しが必要。